公務災害防止事業の推進

安全管理セミナーを実施して

広島県尾道市消防団

1　はじめに

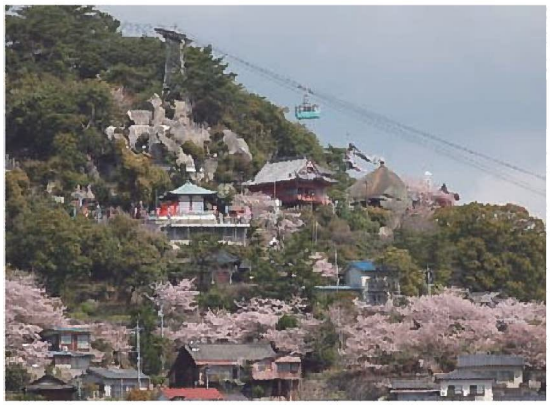
わたしたちのまち尾道市は、明治31年に誕生し、平成20年には市制施行110周年を迎えました。尾道水道沿いには歴史を刻んだ寺院が文化の薫り高い雰囲気を醸し出し、周囲の自然環境と調和し落ち着いたたたずまいを見せています。

最近では因島市、御調町、向島町及び瀬戸田町との合併により、北部中山間から瀬戸内しまなみ海道沿いに至るまで大きく広がった市域には、緑豊かな丘陵や多島美を誇る比類なき優れた景観に加え、豊かな歴史・伝統に育まれた魅力溢れる多彩な文化資源があり、まちの魅力が更に増しています。

平成22年11月には、これらを結ぶ高速交通網として尾道自動車道の尾道JCTから世羅IC間が供用開始され、しまなみ海道及び山陽自動車道と合わせ、瀬戸内の十字路としての尾道の拠点性は更に高まりました。

これからは、瀬戸内の十字路としての拠点性や都市機能を活かし、個性豊かな地域として将来に向けて、ますますの発展を図っていくことが必要であるため、「個性をみがくまち」「人が輝くまち」「安らぎのあるまち」の三つの都市像を掲げ、“活力あふれ感性息づく芸術文化のまち　尾道”の実現のために総合計画が推進されています。

尾道市南部の生口島及び高根島は、島中央に



千光寺

生口島の柑橘

山脈が縦貫、南北は分水嶺を形成している急傾斜地であり、その中腹から海岸部にかけて温州みかん、レモン、デコポン、せとか及びはるか等の柑橘栽培が行われ、その味と品質は全国的にも知られています。

また、NHK連続テレビ小説「てっぱん」が平成22年９月から平成23年３月まで放送され、尾道のすばらしい景観や文化がお好み焼き（尾道焼き）とともに全国に発信され、尾道ラーメンと並び「尾道の食」の認知度がますます高まっています。

お好み焼き

2　尾道市消防団の沿革

尾道市消防団は、昭和22年10月、消防団令の交付により旧警防団を廃止し、８分団、団員651名で発足しました。その後、機構改革や市町の合併により、昭和45年４月には６地区、15分団、1,158名となりました。

平成17年３月には、御調郡御調町及び向島町と合併し、５方面隊、30分団、1,128名となり、平成18年１月には、因島市及び瀬戸田町と合併し、８方面隊、45分団、1,716名と変遷し現在に至っています。

3　安全管理セミナーを実施した経緯

これまで尾道市消防団では、方面隊単位で分団幹部が消防職員（署長補佐・分署長等）から事例・体験談等を聞き、現場の安全管理等を学習して参りました。消防署へ講師を依頼し交流することにより、署所と分団幹部との消防活動における連携強化と安全管理の徹底を図ることを目的として、独自に安全管理講習を実施してきたところです。

この度、地域住民の生命、身体及び財産を守る崇高な任務に携わる者として、安全管理についての知識を更に深め、公務災害の防止を図ることを目的に安全管理セミナーを実施しました。

4　安全管理セミナーを実施して

消防基金から講師の小田敏数氏及び岡田孝範氏をお迎えし、平成22年６月13日（日）及び平成23年１月30日（日）に尾道市消防団本部・分

講演開始

講演の様子

講師への謝辞

団幹部245名が参加し、安全管理セミナーを受講しました。

安全を考える時、どうしても現場活動や想定訓練等に目が向きがちですが、今回の受講で普段の生活・活動時にこそ危険が潜んでいるということ、ケガより健康面での素因が多いことなど、見落としがちになっていたことを改めて知りました。

これまで以上に安全に対する考え方が強くなったことは、受講後のアンケートからもうかがい知ることができ、受講者がより多くの団員に安全管理を“聞かせたい・伝えたい”と思う意識の向上に大いに役立ち、各分団が消防団活動時の安全管理にしっかり取組んでくれるものと期待しております。

5　今後の取り組みについて

尾道市消防団では、今後も積極的に公務災害防止に取り組んで行きます。

具体的には、消防基金推奨のS-KYT（消防団危険予知訓練）研修を受講することで、危険を予知する能力を高めたいと考えています。

消防団幹部は、これまでに学んだことを若い団員に引き継いで行くとともに公務災害防止研修を受講することで、更に“知識と意識”の向上を図り、自信と責任感を備えた優れた指導者となってくれるでしょう。

尾道市消防団は、これからも尾道市民のために安全・安心なまちづくりを目指してまいります。